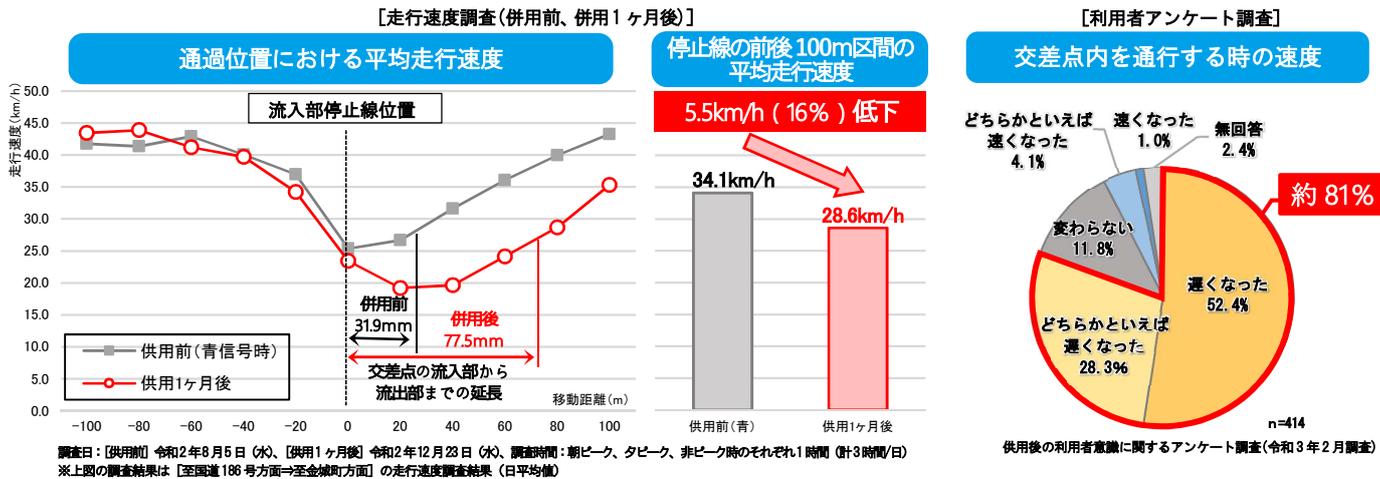


環状交差点の整備効果と今後の課題

整備効果 1

走行速度の低下

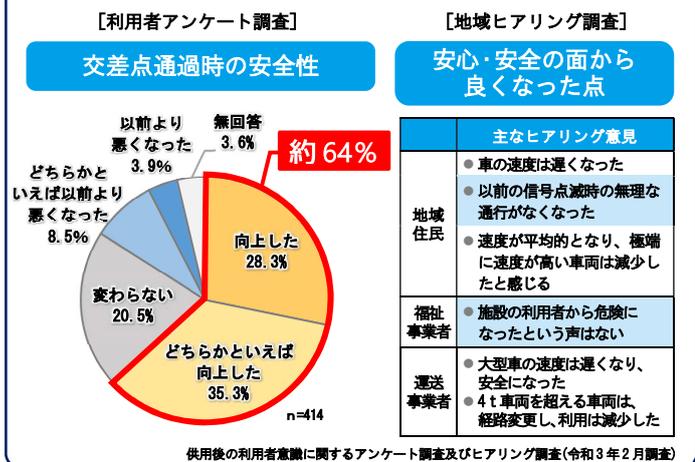
- 環状交差点の導入後、停止線の前後100m区間の平均走行速度は、約5.5km/h（16%）低下
- アンケートでは、交差点内を通行する時の速度について、約8割が遅くなったと回答



整備効果 2

安全性の向上

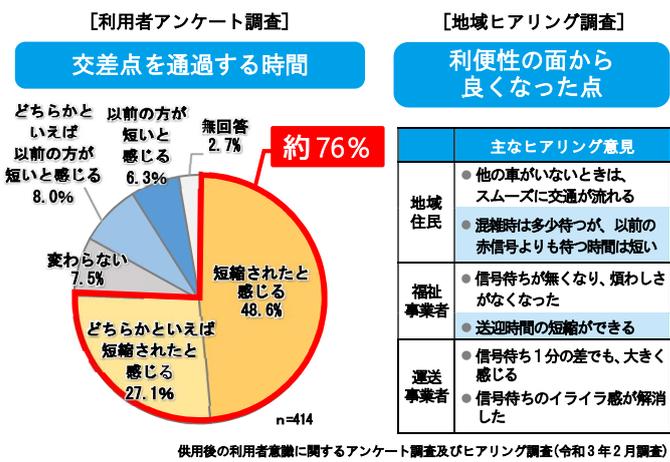
- アンケートでは、交差点通過時の安全性について、約6割が向上したと回答
- ヒアリングでは、「信号点滅時の無理な通行」、「極端に速度の高い車両」が減少した等、速度低下による安全の向上を実感



整備効果 3

利便性・快適性の向上

- アンケートでは、交差点を通過する時間について、約8割が短縮されたと回答
- ヒアリングでは、「スムーズに交通が流れる」、「信号待ちの煩わしさ、イライラ感が解消」等の利便性の向上を実感



今後の課題

- アンケートでは、交差点の安全性が悪くなった意見として、「交通ルールが守られていない」、「通行方法に慣れていない」といった意見が多い。危険(ヒヤリハット)の経験は、利用者の約2割にみられる
- 交通ルールの認知度は、「その他」地区で認知度が低く、地域差がみられる。周辺地域だけでなく、広範な地域で交通ルールの周知徹底が必要

